

Y02c

## 紀伊かわべ天文公園における教育普及システム

山田竜也・大西浩次・矢治健太郎・上玉利剛・古屋昌美（紀伊かわべ天文公園）

今年、平成8年の6月16日（日）に、和歌山県日高郡川辺町に「紀伊かわべ天文公園」という公開天文台がオープンする予定である。そのオープンに先立って、この公園が目指すものを紹介したい。

まずこの公園の特徴としては、1) 大口径反射望遠鏡、2) プラネタリウム、3) 最大54名収容可能な宿泊施設、4) 太陽望遠鏡、5) 館内CATVをはじめとするAVシステム等が挙げられる。

まず本施設の目玉である反射望遠鏡だが、製作は三鷹光器が担当し、有口径1m、F=10となっている。これにアストロカム（旧アストロメッド）社製の冷却CCDカメラが接続可能で、観望会以外にも実際の研究観測をも行えるシステムとなっている。

もう一つの目玉であるプラネタリウムは、直径11m・90席のドームにミノルタ・プラネタリウム製の新型「Cosmo Leap」が入る。また大型ビデオプロジェクターを備え、PAONET等で流れている映像をコンピューターから直接投影できる。さらに学習投影を考慮して全席引き出し式のテーブルがついているため、研究会にも対応が可能である。

もう一つ、AVシステムはNTTが六甲天文通信館の運営で得たノウハウを発展させたものであり、望遠鏡のリモート・コントロールこそできないものの、望遠鏡で現在撮影している映像をプラネタリウム内、エントランスホールや宿泊棟内にリアルタイムで流すことが出来る。

以上のように、本公園は充実したハードがそろっている。年会ではハードのもう少し具体的なスペックと、それを如何に運営しようとしているかを紹介したい。